

研究結果報告書

朱子学の日本化についての研究を通じて、下記の結果が出た。

第一、藤原惺窩と林羅山を代表とする日本の知識人による朱子学を基調とした儒学の体系化は、五山禅僧と世襲の博士家が、ただ限られた範囲における朱子学を整理して紹介するという局面を変え、新しい段階を切り開いた。日本における朱子学を基調とした儒学者の出現は、朱子学の日本化への重要な体現となった。日本の朱子学者は師伝と家学を通じて朱子学を広め、これを土台として次第に日本の朱子学派を形成したのである。

第二、日本の朱子学者の哲学思想と言え、井上哲次郎氏と丸山真男氏が評価されたように「忠実に程朱(程顥・程頤・朱熹)の学説を紹介し、その範囲を越えようとしない」というわけではなく、相当な主体性と自発性を持ち、それによって朱子学が日本化への哲学的な特色を体現していった。たとえば、藤原惺窩と林羅山は後世諸儒学学説の基礎の上で観点の選択あるいは理論の再構築を行っているが、朱熹の思想とはかなりの相違がある。これは日本朱子学者の哲学上の自覚が現れた結果と思われる。その他に、藤原惺窩、林羅山と山崎闇斎は日本社会の人倫墮落に直面し、この問題を強く意識するとともに、朱熹の形而上学の体系を疎遠にし、転じて実践倫理の重要性を強調するという朱子学の日本化につなげた。

第三、朱子学の日本化の過程において、江戸時代のインテリゲンチア(知識人)の一部にはアイデンティティの確立に関して極端的な一面も現れた。例えば、江戸時代において朱子学の伝播によって、日本民族のアイデンティティが日ごとに儒学の影響を受けることで、日本の思想界には外来の儒学を認めるか、あるいは日本の神道を認めるかという文化の二者選択の問題としてとらえる者も現れ、極端には異国の中国を認めるか、日本を認めるかという立場の選択につなげるといった問題も起こった。そのうち、日本の国学者は復古神道の創建を通じて、理性による方法ではなく、神秘主義によって、仏教、儒学を排斥し、これを以て日本の特有な神性アイデンティティを強化することにつながった。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

題名 : 江戸時代における日本アイデンティティの構築
発表者名 : 王玉強
会議名 : 「中国における日本歴史研究の現状と展望」シンポジウム
及び中国日本史学会2012年例会
日時・場所 : 2012年12月、天津

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

- 1、「江戸初期における日本朱子学者の哲学自覚」、王玉強、『学習と探索』2012年第6号、この論文は『中国社会科学ダイジェスト』2012年第11号全文転載された。転載のテーマは「江戸初期における日本の朱子学」

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)